令和8年度　学校教育目標『挑戦 笑顔ひろげる　丹那の子』
重点目標「夢中になる子　知りたい　なりたい　やってみたい」

丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和８年10月発行

１学期の終わりにあたり

校長　飯田　英晃

10月９日で１学期の終了となりました。４月８日に始まった令和８年度も半年が過ぎ、子どもたちはその間の学びの足跡を通知表という形で担任の先生方から受け取りました。

各家庭ではこの通知表をどのようにご覧になっているでしょうか？1年生は初めての通知表です。お子様と同じくらい、ドキドキした気持ちで見る保護者の方もいらっしゃるでしょう。6年生にもなると、もう慣れたものでしょうか。終業式で、子どもたちには「通知表を『自分がよりよく育つヒント』にしてほしい」という話をしました。「○」や「３」の数で人と比べるのではなく、担任の先生が一人一人に書いて下さった文章（「学校から」）をよく読むこと。そうすると自分の良いところ、頑張ったところと、もっと頑張れるところ、これから直していけるともっと伸びるところを見つけられると伝えました。各家庭でも、通知表を「できなかったことを叱る」材料にするのではなく、「頑張ったことを認める」材料にしていただきたいと思います。



９／25　４年生　落花生の収穫

先日の会議でいただいた資料の中に、私たち教職員だけでなく、保護者の方にも子育てのヒントになりそうな文言があったので、紹介します。

１「やり方（プロセス）を自分で工夫する体験の保証

・失敗したときに大人がすぐに答えを出さず「どうやったらうまくいくかな？」と探求させる。

２「できた・できない」を客観視する「振り返り（言語化）」の習慣化

・「楽しかったね」で終わらせず、「どうやってこれ作ったの？」「一番難しかったところはどこ？」と尋ねる。

３「失敗＝探求のチャンス」と捉える心理的安全性の構築

・「失敗しちゃったね」ではなく「いい実験になったね！次はどうしてみる？」と声をかける。

４「指示されてやる」から「やりたくてやる」へのシフト（内発的動機づけ）

・決められたプログラムをこなす時間だけでなく、自分で選択し、計画し、やり遂げる（または途中で変更する）時間をしっかり確保する。

・子ども自身の「知りたい！やりたい！」という好奇心（内発的動機）を起点とした学びを徹底する。